

## <育成光線水生成器・気施気 本来機能とマイナスイオン増加の仕組み>

気施気は遠赤外線の中の4～14ミクロン領域の波長(育成光線と言われている)を放射する装置です。

地球上の生物はこの育成光線によって生命が維持されていると云われております。又、あらゆる生物は水がなくては生きて行くことが出来ません。水は地球上生物全ての原点です。

この装置は水を瞬時に機能化させます。その結果、農業に於いて減農薬栽培を可能にし、作物の生育促進、品質向上、生産性向上はもとより作物の旨味(食味)レベルの数段アップ等多々良い効果が確認されております。これが正しく気施気本来の機能です。

話は替わりますが、最近次の様なことが話題となり、現在研究を進めているところです。それは某企業が、『マイナスイオンは救世主！ マイナスイオンはダニも白アリも寄せ付けない云々…。マイナスイオンが周りがあると死んでしまう。』とコメントした事です。

この内容には大変驚くと同時に大きなヒントがあると受け止め、当方の考え方や理論を以下文に説明させていただきます

即ち、マイナスイオンを沢山発生させること事が可能ならば、病虫害は寄り付かなくなるか死んでしまう。更にはマイナスイオン水が防除対策として効果があるのでは！ と考えるのは当然の事です。そこで弊社製造の育成光線水生成器・気施気(水)が登場し、これらを簡単に可能にしてくれます！！

大半の病虫害はプラスイオンを帯電して生きています。そこにマイナスイオン水を散水すれば、生存し難い環境変化が起き、自ずと害虫類は淘汰されることになる訳です。

又、育成光線水で育苗をすると硝酸態窒素も少ない作物になっているので、この面からも虫は寄り付かなくなります。以上の様な結果から、減農薬栽培、無農薬栽培が可能になります。

次に水が育成光線水生成器・気施気を通るとなぜ高いマイナスイオン水が発生するのか？ その原理は次の通りです。

気施気からの育成光線を受けた水は瞬時に0.3ナノ(nm)レベルの超微細化された水に変化します。その為、この超微細化された水はマイナスイオンを帯電し、ごくごく自然にマイナスイオン水が出来ることになる訳です。 \*ナノメートル(nm)は10億分の1メートル

この様な優れた機能を持つ水装置はどこにも存在しません。唯一無二の装置です。それこそが育成光線水生成器・気施気と云うことになります。

世に、この気施気が大活躍する日が近いことを案じて普及活動に邁進する毎日です。

## 追記

過去の事例を調べて考察すると、驚くべきマイナスイオンの力が解って来ました。それは、マイナスイオン水が病害虫の防除に役立つと同時に、作物の生育・成長を助ける有益な微生物類が沢山発生すること事例です。

## 一例として

キュウリ栽培のハウスに線虫が繁殖して困っている所へ、育成光線水が使われるようになったら、線虫が消えて、替りに放線菌が沢山繁殖してきた、結果としてキュウリの栽培が安心して出来るようになった。又、枝豆の畑では根粒菌が沢山発生して、豆の収穫量が2倍以上になった。熊本県では小麦の収穫量が2倍になった、等々土壌や収穫量含めて農業への有効な報告がありました。

(2005年11月3日出版 ミクロの決定圏より)

この事例はただの偶然ではなく大自然界の法則で、マイナスイオンの環境にすることで、プラスイオンを帯電する病害虫は活動が止まり、自然発生的に作物に有効な微生物類が発生して、作物の生育を助ける。これは正に自然界の大法則そのものです。

令和5年11月  
(株)エコ・サッポロ  
高橋 優